

初年次教育の新しい取り組み 全学共通「フレッシュマン・セミナー」

保田 昌秀

1. はじめに

初年次教育は、新入生を大学へ円滑に導入するための授業として、多くの大学で実施されている(川合 2016)。文部科学省の大学における教育内容等の改革状況についての調査(文部科学省高等教育局 2014)では、90%を超える大学が初年次教育を導入している。

宮崎国際大学の初年次教育は、従来、国際教養学部では「リベラル・アーツ入門」で、教育学部では「忍ヶ丘教養Ⅰ」で実施していた。しかし、国際教養学部では例年、総退学・除籍者が20人前後と多い。なかでも1年生での退学者が7~9人(2019~2021年度)であり、入学者の6.1%~8.9%に相当する。そこで、入学当初から学習意欲を高めて、ストレートで卒業できる学生の割合を高める必要があった。さらに、英語での教育を謳っている国際教養学部ではあるが、「リベラル・アーツ入門」において入学当初に英語で初年次教育を行うことが、円滑に大学生活に馴染むことに繋がっているのかが疑問であった。一方、教育学部の「忍ヶ丘教養Ⅰ」では日本語で初年次教育が実施され、学習意欲の高い学生が多く、退学者・除籍者が少ない。

そこで、教育学部の「忍ヶ丘教養Ⅰ」の内容を取り入れた全学共通「フレッシュマン・セミナー(必修科目)」を開講して、日本語での初年次教育を令和4(2022)年度から実施することとした(Figure 1)。このような必修の全学共通科目の開講は、本学初めての取り組みである。著者は、同科目の計画から実施までを担当したので、全学共通科目として実施した初年次教育の検証結果を報告する。



Figure 1: Classroom at the 2022 Freshman Seminar

2. 日本の大学における初年次教育

初年次教育は、当初は、専門教育に備えての英語・国語・物理・生物・コンピュータ活用などの基礎学力向上を目的とするリメディアル教育科目であった。しかし、最近では、入学者の多様化によって、「学習習慣が身に付いていない・学習意欲がない・学習目的が明確でない・学力が十分身に付いていないなどの問題を抱える学生が多くなっている」と濱名が報告している(濱名 2008)。このような

初年次教育の新しい取り組み
全学共通「フレッシュマン・セミナー」

背景から、初年次教育では、学びや学校生活が高校とは大きく異なる大学へ入学した新入生の精神的負担を軽減し、円滑に大学生活に馴染むことができるような内容へと移行していると述べている。2007年9月の中央教育審議会大学分科会学士課程教育の作り方に関する小委員会が公表した『学士課程教育の再構築』審議経過報告（中央教育審議会大学分科会 2007）のなかで、「学びの動機づけや習慣形成に向けて、初年次教育の導入・充実を図り、学士課程全体の中で適切に位置づける」と明記されており、山田の報告（山田 2008）においても、初年次教育は、当初のリメディアル教育から、「大学生活への適応」が中心になってきていると述べている。

文部科学省の調査（文部科学省高等教育局 2014）では、一般的な初年次教育の内容は、「(A) 学問や大学教育全般に対する動機付け（79% 大学）」、「(B) 将来の職業生活や進路選択に対する動機付け（77% 大学）」、「(C) レポート・論文の書き方等の文章作法（88% 大学）」、「(D) プレゼンテーション等の口頭発表の技法（90% 大学）」、「(E) 大学内の教育資源（図書館など）の活用方法（79% 大学）」となっており、多くの大学の授業内容は似ている。Table 1 に日本の大学で実施されている主な初年次教育の内容を分類(A)～(E)として示す。

Table 1. General classification of first-year education contents in Japan

(A) Motivation for academics and university education	学問や大学教育全般に対する動機付け
(B) Motivation for future work life and career choices	将来の職業生活や進路選択に対する動機付け
(C) Writing manners how to write reports and papers,	レポート・論文の書き方等の文章作法
(D) Techniques for oral presentations	プレゼンテーション等の口頭発表の技法
(E) How to utilize educational resources	大学内の教育資源（図書館など）の活用方法

3. 宮崎国際大学「フレッシュマン・セミナー」の実施

授業内容：「フレッシュマン・セミナー」のシラバスの到達目標には次の三つの項目を掲げた。

- 1) これからの大学生活を過ごす上で必要な大学教育の基本的事項に関する情報を修得する。
- 2) 学部カリキュラムを効率的に学習する上で必要な教育資源を活用する技術を修得する。
- 3) 自主的、継続的な学習を進めていく上で必要な学習方法・学習スキルを修得する。

これらの到達目標を達成するために、第1回～5回では大学の紹介・学びについての授業を、第6回～7回では就職について、第8回～9回では英語学習法について、第10回では図書館の利用法について、第11回～14回では日本語による会話や文章作成について、第15回ではまとめについての授業を行った。Table 2 に各回の授業内容と担当者、および Table 1 の初年次教育の内容の分類(A)～(E)との関係を示す。この中で「(D)プレゼンテーション技法」については、受講生は大人数であり、静粛な学習環境が崩れることから、実施しなかった。これらについては両学部の他の授業科目で行われている。

授業方法：フレッシュマン・セミナーの授業目標として、授業を通じて学生に学修や就職についてじっくり考えさせることで「学習意欲」を高め、さらに、継続した受講を促して「学習習慣」を身に付けることに重点を置いた。授業は、毎回の授業担当者が変わるオムニバス方式で実施された。授業担当者 14 人の他に、世話人 2 人が教室に同席して、円滑な授業の運営と静粛な学習環境の保持に努めた。フレッシュマン・セミナーの授業概要を 1)～5)に示す。

Table 2. Schedule, teacher, and class contents in Freshman Seminar in 2022

Teacher: Schedule	Contents (Classification) ¹⁾	Q ²⁾
1. Kenji Yano: April 14	学びのすすめ・読書のすすめ・就活で問われるもの・学生生活の送る上で知っておいて欲しいこと・社会人になるための準備 Recommendations for learning and reading, questions to be asked in job hunting, what you need to know in your student life, and preparing to become a member of society	(B) 25
2. Keiko Yamashita, Chairman, April 21	学校法人宮崎学園の沿革、建学の精神「礼節・勤労」を知る History of Miyazaki Gakuen, knowing the founding philosophy of "Respect and Diligence"	(A) 28
3. Noboru Murakami, President: April 28	宮崎国際大学の目指す教育について About the education MIC aim for	(A) 11
4. Anderson Passos, Dean, Nobuhiro Fukuda, Dean, May 12	(SILA) 国際教養学部の教育方針 Educational Policy of the SILA (EDU) 教育学部の教育方針、「教員とは」 Education (Educational Policy) of the EDU, "What is a Teacher?"	(A) 24
5. Cathrine-M. Mork, Kunihiro Nakahara, May 19	(SILA) 講義ノート・自分のノートの作り方 Lecture notes, how to make your own notes (EDU) 大学でどう学ぶのか How to Learn at College	(A) 68
6. Kenji Yano, Career Center, May 26	職業や進路選択に対する動機付けについて Motivation for choosing a profession or career path	(B) 18
7. Shigeo Kuwabara, June 02	企業から求められる大学生について About students required by companies	(B) 28
8. Hiroyuki Ishihama, June 09	英語学習法について学ぶ Learn how to learn English	(C) 40
9. Mark Waterfield, June 16	英語による英語教育を体験する Experience English education in English	(C) 10
10. Nana Matsuda, Library, June 23	図書館の基本的利用方法 (図書の見つけ方や借方法) Basic method of using the library (how to find and borrow books)	(E) 5
11-12. Ikuko Hayase, June 30, July 28 ³⁾	ビブリオバトル: 図書館にある本の書評を書く、日本語を正しく書く力と話す力の必要性 Bibliobattle: Write a book review of a book in the library. Understanding the need for the ability to write and speak Japanese correctly	(C) 106
13-14. Yuji Kawagoe, July 14, 21	分かりやすく簡潔な文章 (主題が明確である文章、間違いがない文章、端的に表現する文章) について学ぶ。さらに、期末試験のための課題の提示 Learn easy-to-understand and concise sentences (sentences with a clear subject, sentences without mistakes, sentences that are simply expressed). In addition, presentation of assignments for the final exam.	(C) 60
15. Masahide Yasuda, IR Center, July 23 ⁴⁾	IR 活動、情報モラルおよびフレッシュマン・セミナーアンケート (オンライン授業+対面授業) IR activity and Assessments of Information Morale and Freshman seminar (On line+ face to face)	(E) 1

1) (A) - (E) show classification of contents of first-year education listed in Table 1.

2) Q is number of classes answered by students in the final exam.

3) Class was changed from July 7 to July 28 due to the spread of Covid19.

4) The class was held on July 23 Saturday as a supplementary class through on line and face-to-face.

- 1) 受講生数は、国際教養学部新入生 88 人、同過年度生 5 人、および教育学部新入生 54 人の合計 147 人であり、受講生の中には 4 人の外国人留学生がいた。当初、留学生には、別途開講の「リベラル・アーツ入門」で初年次教育を行うことになっていたが、令和 4 年度は外国人留学生も「フレッシュマン・セミナー」を日本語で受講した。
- 2) 学生が授業に集中するように、毎回の授業で課題を課した。授業終了 15 分前までに授業に関連する課題を Google Forms で出題して、授業時間内に解答させた。インターネットに接続できない学生には用紙を配布した。課題は出欠管理と成績評価に用いた。授業に関係する資料をほとんど配

初年次教育の新しい取り組み
 全学共通「フレッシュマン・セミナー」

布しなかったが、多くの学生は自分のノートを見て課題に的確に解答できていた。

- 3) **Table 2** の右端欄に、期末試験（後述）で学生が選んだ「学生にとって大切な学びとなった」三つの授業の延べ解答数を示す。学生は、ビブリオバトル・敬語の使い方（11～12 回目）、ノートの書き方（5 回目）、簡潔な文章作成の授業（13～14 回目）が大切な学びとなったと答えている。
- 4) 前半（1～7 回目）の授業は講義形式で行ったが、後半（8～14 回目）ではアクティブ・ラーニングが取り入れられた。英語学習法（第 8 回目）の中では、担当教員が「英語のことわざ」についてのプリントを配布して、練習問題・答え合わせ・解説を行う対話型授業が実施された。第 9 回目には英語による英語学習法の授業が行われ、重要な箇所や分かりにくい英語表現は日本語で補いながら進められた。この授業でも対話型授業が行われ、学生が簡単な英会話の練習を隣の学生を相手に行った。日本語学習（第 11 回目）の中では、図書館や個人所有の本についての書評を発表し合うビブリオバトルがグループ学習で行われた。10 人程度からなる各グループでは、6 人の発表者がそれぞれ持参した本の書評を 3 分間で発表し、2 分間の質疑応答が行われた。熱心な発表と質疑が行われた。美しい言葉についての授業（第 13 回目）では、詩の題名や文章の空欄に入る言葉を考え、プリントの文章を黙読してワークシートの設問に答える対話型授業が行われた。
- 5) 本学教職員以外のゲストスピーカーによる授業も行われた。2 学部に分かれて実施した学部の授業内容や特色についての授業（4～5 回目）の中で、教育学部 4 年生がゲストスピーカーとして、「より良い大学生活を送るために」と題した体験を話した。新入生には先輩の体験談が身近に感じられて好評であった。次年度は国際教養学部の海外研修体験者の報告を取り入れたいと思っている。第 7 回目には外部の中小企業診断士がゲストスピーカーとなり、「企業から求められる学生」についての授業があった。

出欠管理：授業の出欠管理は課題の提出によって行い、提出した学生を出席者とした。15 回すべての授業を出席した無欠席学生は、国際教養学部 20 人（30%）、教育学部 16 人（30%）であった。Google Forms では教室外からでも解答できるが、授業に出席していないと解けないように工夫し、授業終了後の提出は受理しないことで、出欠管理は厳格に行った。それでも教室外から課題を提出する学生が毎回 4～5 人はいたと思われる。**Table 3** に各回の授業の欠席者数を示す。15 回の授業を前半、中盤、後半と分けて欠席率を見ると、国際教養学部の前半（第 1～5 回）、中盤（第 6～10 回）ともに欠席率は 8.8%を示している。この値は教育学部の 4.0%の倍以上である。欠席率は、学習習慣が身に付いていない学生の割合のバロメータと考えられる。国際教養学部の 2018 年度入学生の退学・除籍者率は 9.4%であり、欠席率 8.8%はこの値に近い数字である。新入生の中で国際教養学部の 9%（約 8 人）、教育学部の 4%（約 2 人）の学生が、潜在的に学習習慣が身に付いていないと予想される。後半（第 11～15 回）は新型コロナ陽性者・濃厚接触者が増加したために欠席者がさらに多くなった。

Table 3. Number of absentees

Class=	Number of absentees ¹⁾															NA ²⁾
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
SILA	8	5	7	12	9	7	5	11	9	9	19	11	18	16	33	28 (30%)
	41 (8.8%)					41 (8.8%)					97 (20.9%)					
EDU	1	1	1	3	5	4	0	7	2	0	14	11	10	8	9	16 (30%)
	11 (4.0%)					13 (4.8%)					52 (19.3%)					

1) The values in parenthesis are absentee ratio (=Sum of absentees/5×Number of enrollees).

2) NA denotes the number of students who attended all classes.

成績評価：毎回の課題を5点満点で採点し、15回分を集計して平常点を75点満点とした。欠席数を抑制するために1回の欠席で5点の減点を行った。期末試験の内容を14回目の授業で事前提示して、試験日に学生が教室内で答案用紙に解答する方法を採った。期末試験の内容は、「15回の授業の中で、あなたにとって大切な学びとなった内容を3つ挙げ、それぞれの学びを、今後のあなたの大学生活にどのように生かしていくかについて、具体的にそれぞれ200字程度で述べなさい」とした。期末試験を25点満点で採点して、平常点と合わせて成績評価を行った。**Figure 2**に成績分布を示す。合格者142人（国際学部89人、教育学部53人）、不合格者5人となった。不合格者は出席要件を満たさず不合格となった学生である。

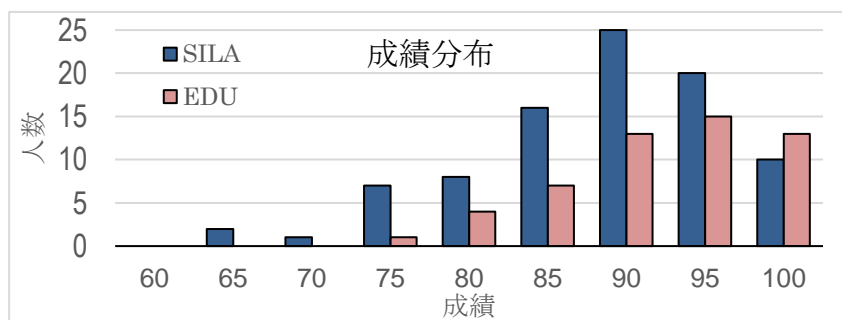


Figure 2. Grade distribution. Average =86 (SILA) and 90 (EDU).

Grade	SILA	EDU
56-60	0	0
61-65	2	0
66-70	1	0
71-75	7	1
76-80	8	4
81-85	16	7
86-90	25	13
91-95	20	15
96-100	10	13
Sum	89	53

4. アンケートによる授業の分析

フレッシュマン・セミナーについてのアンケートを、通常の「授業評価アンケート」とは別に15回目の授業で実施した。回答数116人、回答率79%であった。**Table 5**にアンケート内容と集計結果を示す。「Q1 学習意欲の向上に役だったか」の質問に対して87%の学生が役立ったと回答し、「Q2 学習習慣形成に役だったか」の質問に対して77%が役立ったと回答した。「Q3 15回の授業内容は、全体的に満足いく内容でありましたか」の質問に対して、ほとんどの授業が満足いく内容であったと回答した。これらの結果は、「フレッシュマン・セミナー」は、新入生の「学習意欲の向上」および「学習習慣形成」に役立っていることを示している。「Q4 フレッシュマン・セミナーで改善して欲しいこと」として、31%の学生が「この授業は、今後の学修にどのように役立つかが分かりにくい」と回答した一方で、69%の学生が「特に改善の必要がない」と回答した。これらから、次年度も、ほとんど同じ内容で継続実施したいと考えている。

5. まとめ

全体として、授業中の学生の態度は良好であり、ノートを取りながら熱心に受講している同級生の態度を見て、お互いに学習意欲を高め合う環境がこの全学共通科目にはあった。また、オムニバス方式で授業担当者が毎回変わることを、学生は新鮮だと見ているようだった。「フレッシュマン・セミナーについてのアンケート」の自由記述には、両学部学生が交流する授業や参加型の授業の要望が出されている。しかし、これらの授業方法が、学生全体の「学習意欲の向上」や「学習習慣の形成」に繋がるかどうかは不明である。大学教育において、従来の受動的学習 (Passive Learning) よりも能動的学習 (Active Learning) が多用されるようになってきているが、新入生全体の「学習意欲の向上」、「学習習慣形成」のためには、アクティブ・ラーニングを落ち着いた学習環境で行うことが重要だと思われる。

初年次教育の新しい取り組み
 全学共通「フレッシュマン・セミナー」

参考文献

1. 濱名篤(2008) 初年次教育の必要性と可能性、大学と学生、日本学生支援機構, No. 5. 6-15.
<https://www.jasso.go.jp/gakusei/publication/dtog>
2. 山田礼子(2008) 初年次教育の歴史と理論、大学と学生、日本学生支援機構, No. 5. 16-23.
<https://www.jasso.go.jp/gakusei/publication/dtog>
3. 文部科学省高等教育局(2014) 「大学における教育内容等の改革状況について (概要)」 大学振興課
 大学改革推進室、2014年11月14日.
4. 川合宏之 (2016)、「大学における初年次教育の現状と課題」 人間生活文化研究 No. 26、232-238
5. 朝日新聞(2012) 「2012 ひらく 日本の大学 (全学版)」 朝日新聞デジタル,
<http://www.asahi.com/edu/hiraku2012/data09/pdf/data02.pdf>
6. 中央教育審議会大学分科会制度・教育部会学士課程の在り方に関する小委員会 「学士課程教育の
 再構築に向けて (審議経過報告)」、2007年9月.

Table 5. Assessment on Freshman Seminar.

Question		Answer	
Q1	授業は「学習意欲の向上」に役立ちましたか Did the classes help you "improve your motivation to learn"?	この授業は「学習意欲の向上」に役立った This class helped to improve learning motivation	87%
		この授業は「学習意欲の向上」にあまり役立たなかった This lesson did not help much in improving learning motivation.	4%
		どちらとも言えない I can't say either	10%
Q2	授業は「学習習慣の形成」に役立ちましたか Did the classes help you "form study habits"?	この授業は「学習習慣の形成」に役立った This lesson helped to form learning habits	77%
		この授業は「学習習慣の形成」にあまり役立たなかった This lesson did not help much in formation of learning habits.	7%
		どちらとも言えない I can't say either	16%
Q3	15回の授業内容は、全体的に満足 of いく内容でありましたか。Were you satisfied with the content of the 15 lessons overall?	全体的に満足 of いく内容だった Overall it was a satisfying content	61%
		満足 of 行かない授業が一部あった There were some lessons that I was not satisfied with.	33%
		どちらとも言えない I can't say either	5%
		ほとんどの授業が満足 of がいかなかった Most of the lessons were not satisfactory	1%
Q4	改善して欲しいことがあれば、答えて下さい (複数回答可) If you have something you would like to see improved, please answer	全体的に役立つ授業であり、改善点は特にありません There is nothing I want to improve.	69%
		この授業は、今後の学修にどのように役立つのかが分かりにくかった It was difficult to understand how it will be useful for future studies.	31%
		困難さや不安を強調する話が多かった There are many stories that emphasize difficulty and anxiety.	5%

Q5 意見があれば、記載ください If you have any opinion, please write them down (自由記述)

肯定的意見 (要約)	<p>(国際教養学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しい授業やこれからの事を考えさせる授業など色々な話題を取り上げていたので毎回学びが多く、どれも良い講義だったと思います。 ・ 話を聞いて学習意欲を上げることができたので良かったと思う。 ・ 様々な講師の方にたくさん話を聞いて自分の考え方の視野を広げてくれました。 ・ 知らなかったことを沢山知れ、役立つ情報が得られてとても有意義な授業だった。 ・ これから先どのように過ごせばよいか少しわかってきた気がしました。 ・ 脳の話が面白かったのでまた聞きたいです ・ 知識をつけるのが好きなので、とても楽しい授業だった。全体的に好奇心を刺激される内容で良かった。特に認知能力/非認知能力についての講義は興味深かった。 ・ 将来のことや大学生活をじっくり考えられる時間だった。楽しかったです。 <p>(教育学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フレッシュマン・セミナーで学んだことを大学生活で活かしたいと思います。 ・ これからの私たちにためになることや繋がることを学ぶことができて良かったです。 ・ 毎回の授業が自分にとってためになるものでした。 ・ さまざまな先生の講義が聞いてとても良かったです。 ・ 社会に出ていく上での心構えや大学の授業に向かう姿勢などを学習することが出来た。 ・ 基本的にはこれからの学校生活で役立つ内容を多く学べたため、これからの学校生活に活かしていきたいと思う。 ・ 色々な分野のお話を聞き、色々な考え方を学べた。自分からは履修することがないであろう分野の話は意外と興味深く、自分の知らないことをたくさん知れてよかった。 ・ たくさんの方の講義や人生経験を聞くことができて自分のためになりました。
批判的意見 (要約)	<p>(国際教養学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての授業内容が学習意欲の向上に繋がるものではなく、授業内容がばらばらだった。 ・ ほとんどの授業が役に立ったと思うが、いくつかの授業が必要な授業とは思えないものもあったので、もっと今後のためになる授業をして欲しい。 ・ 講義の内容が被ったりしていた ・ リフレクションシートで聞かれる内容がほぼ毎時間同じで、授業の講師が同じだったりすると書く内容が似通ったものになりがちだった。 ・ たくさんの方が一度に集まっているため仕方がないと思うが、私語が多すぎる気がする。 <p>(教育学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人数が多いと授業中の私語が多くて、あまり集中して受けることができなかった。
改善意見 (要約)	<p>(国際教養学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には楽しく受講出来ました。もっとグループワーク等があると教育学部や普段関わらない人ともっと関わることができ、コミュニケーション力向上にも繋がると思います。 ・ 外部講師の方を呼ぶ授業を増やして欲しい。 ・ 話し合う活動を増やして欲しいです。 ・ 大体が話を聞いてメモして最後に課題なのでもっと参加型の授業にするといいと思う。 <p>(教育学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の学習のためになることの多い講義であるが、先生によってスライドを変えるタイミングが違っていて大事なところをメモできないということが多々あった。改善して欲しい。 ・ パワーポイントでノートに書くのに追いつかなかったので、資料が欲しいなと思いました。 ・ 毎回講義資料を配って貰えるとメモ等も取りやすいと感じた。メモの途中で時間の関係で次のスライドに移ってしまい、書けない部分が多くあり、全ての授業に資料が欲しかった。 ・ 国際教養学部の方々との交流がもう少しあった方が良かったと思いました。 ・ ビブリオバトルのときみたいに、もっと両学部が関わる機会を作ってくれたら嬉しい。 ・ 国際教養と唯一関われる授業なので、もっと話し合いとか接点を増やしたいです。 ・ 将来に役立つのだろうと思える内容もあったが、将来どのように役立つのか説明があると良いなと思います。また、大学入学してすぐの私達には難しい内容もありました。

Abstract:

New Initiatives for First Year Education: College-wide Freshman Seminar Masahide Yasuda

The goal of this lesson was to encourage students to think about their studies and employment through the lessons, thereby increasing their motivation to learn and to encourage them to continue taking lessons and acquire learning habits. Classes were conducted in an omnibus system in which the person in charge of each class changed. The outline of the Freshman Seminar is shown as follows:

- 1) The total number of students was 147, including 88 new students from School of International Liberal Arts, 5 of 2nd year students, and 54 new students from School of Education, and there were 4 foreign students among the students. Grades were evaluated by scoring the final exam of 25 points and 75 points for usual lessons. 143 students passed and 5 failed. These five failed students did not meet the attendance requirements.
- 2) Before the end of the lesson, questions related to the lesson were given to students through Google Forms and were answered within the lesson time. The submitted questions were used for attendance management and grade evaluation. The questions given in each class were scored with a maximum of 5 points, and the 15 times were totaled to give 75 points. Although I rarely distributed materials related to the lesson, many students were able to answer the questions accurately by looking at their own notebooks.
- 3) Most of the lessons were conducted in a lecture format, but some adopted active learning. In class of the English Learning Method, the teacher distributed a printout of "English proverbs" and provided exercises, answers, and explanations. In the 9th class, a class on how to learn English in English was held. There was also an interactive lesson in this class, where students practiced simple English conversation with the student next seat. In the Japanese language study, a biblio battle was held as a group study to present book reviews about libraries and privately owned books. In class on beautiful Japanese, an interactive lesson was held in which the title of the poem and the words that would fit in the blanks of the text were considered, the printed text was read silently, and the questions on the worksheet were answered.
- 4) In the 14th class, the final exam questions were presented as "you will list three important lessons for you in the 15 lessons, and how to apply each lesson to your future College life, specifically, state in about 200 characters each". Students answered using an answer sheet in the classroom on the exam day. Table 2 shows the number of classes in which students responded that the class was an important learning experience for them. Many students answered that the lessons on biblio battles and how to use honorifics (Nos.11-12), how to write notes (No. 5), and how to write concise sentences (Nos.13-14) were important lessons for students.